

【校長室便り】

No. 3 1

H30年11月2日(金) 土佐町小中学校 谷内宣夫



全国校長会 研究大会(鳥取大会)に参加して

10月25日26日に鳥取で行われた、全国中学校長会 第4分科会「体力の向上と生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育てる教育の充実」に参加してきました。

全国的に少子化が進み、学校が統合されることが多くなってきています。統合されると遠くから通学しなければならなくなる子どもがいるので、「通学バス」を利用する市町村が多くなっています。

その通学バスを利用する子どもたちの体力・運動能力が落ちてきているという結果が出ています。また、バス通学でなくても保護者が自家用車で送り迎えしている子どもたちも増えてきており、その子どもたちの体力・運動能力も低下している



という報告がありました。

この報告を聴いていた参加者(学校長)から、「実は本校も歩いて登校する子が少なくなって、体力・運動能力だけでなく、頑張ろうとする力・粘り強く最後まで取り組もうとする子どもが減ってきている」「すぐあきらめる子が増えてきている」と相次いで発言がありました。この話題で会が進行しました。

これは特に人口の減少している県や北海道で同じ傾向であるということが分かりました。高知県も同じです。



この土佐町小中学校でも同じことが言えます。

子どものために・・・とって車で送り迎えしていることは、かえって、子どもの体力や頑張ろうとする心を奪う結果にしているのです。全国的な課題となっていることが分かりました。

ある学校では、通学バスのバス停を、学校の前でなく約1Km離れた広場に移し、そこから歩いて登下校させるようになって、体力だけでなく学力も向上することができている。という実践も紹介されました。



なぜ、体力だけでなく学力も上がるのか？

それは、バス停が学校の前にあったときは、ほとんど歩くことなくバスの中でも寝ているような子がたくさんいたそうです。脳が眠っているような状態で教室に入り、授業を受けるので、授業中の姿勢や態度が良くないし、反応が鈍いのです。

それが、バス停が遠くなって歩いて登校するので、体を動かすの

で目が覚める。脳が目覚める。体が起きるのでシャキッとする。授業中の姿勢や態度が自然と良くなってきたからです。

それだけでなく、雨が降ると長い時間歩くことになるので濡れないように傘をさすようになった。自分で天気予報を見て傘の準備をしたりするという、先のことを考えて準備するという習慣ができ、この習慣はあらゆる生活場面や学習場面でも事前に予想して、準備することができるという素晴らしい力(段取り力・想像力・自力解決力)を育てることにつながっているのです。

それらの取り組みをした学校では、

- ・忘れ物をする子が少なくなった。
- ・授業中の姿勢が良くなった。
- ・先生の話をしっかり聞ける子が多くなった。
- ・朝食をしっかり食べる子が多くなった(基本的な生活習慣の改善)

等、良いことが多くなり学校に活気が出てきているそうです。

本校でも、バス通学の子どもたちが多くいます。

バス通学と同じかそれ以上に保護者が車で送り迎えしている子どもたちもいます。



バスの時間に遅れないように意識することなく、遅れたら「つんで行って!」「迎えに来て!」

雨が降ったら「傘を持ってきて!」



忘れ物をしたら電話で「〇〇を持ってきて!」

と保護者に頼みます。保護者の多くはその頼みに応えます。

子どもたちは困らないのです!誰かがやってくれると思っているので自分では先のことまで考えない、行き当たりばったりの言動が多くなるのです。困るから考え、工夫するようになるのです。

土佐町小中学校では、こういう現状から、「何事にもチャレンジしようとするたくましい子を育てたい」と教育活動を推進していきます。学校だけではそういう【たくましい子】は育てることができません。ご家庭の協力が必要です。何かできることから取り組んでいただきたいと願っています。社会に出て通用する人間、これからの変化の激しい時代にも対応できる人間、将来の土佐町(日本)を背負って立つ人間を一緒に育てていきましょう。

よろしくお祈りします。

